

経済予測専門のクラウドサービス「xenoBrain」、
コロナ後5年間の経済動向をAIで予測したレポートを無料公開
～技術革新や国際情勢の影響を予測、企業経営におけるリスク・成長分野の把握に～

株式会社 xenodata lab.（本社：東京都渋谷区、代表取締役：関洋二郎、以下「ゼノデータ・ラボ」）は、本日、今後5年以内の中長期における経済の動向をAIが予測したレポート（以下、「本レポート」という）を無料公開いたしました。本レポートは、現在における技術革新（ex. 5Gや電気自動車の一般化）や社会トレンド（ex. オフィス需要の減少）が今後中長期的にどのような業界・企業・経済トピック※に影響を与えるかをAIで解析した結果をランキング形式でまとめており、企業経営におけるリスク分野や、今後投資すべき成長分野を把握するための社内報告資料としてそのままご利用いただけます。

※経済トピック：製品需要や素材価格、業界需要などの経済的な事象



■本レポート無料公開の背景

新型コロナウイルス感染拡大による経済の不透明性が高まる中、企業の経営リスクへの関心の高まりを受け、ゼノデータ・ラボは新型コロナウイルス感染拡大が企業・業界へ与える影響の予測結果を無料レポートとして公開し、累計ダウンロード数 10,000 以上と非常に多くの方にご利用いただきました。そして今回、ご要望の多かったコロナ後の経済について、xenoBrain の中長期的な予測をレポートにまとめ、新たに公開することといたしました。

■無料公開レポートの内容

《目次》

01 エグゼクティブサマリー

02 総合評価

・業界ランキング（5年後予測）

- ・企業ランキング（5年後予測）
 - 【国内上場企業】5年間で事業成長の可能性が高い企業ランキング 上位120社
 - 【国内上場企業】5年間で事業衰退リスクが高い企業ランキング 上位120社
- ・トピックランキング（5年後予測）
 - 5年間で上昇方向に動く可能性が高いトピックランキング 上位120
 - 5年間で下落方向に動く可能性が高いトピックランキング 上位120

03 主要25業種 5年後予測

- ・各業界総合評価
- ・各業界未来年表
- ・各業界評価サマリー（重要シナリオ一覧、企業ランキング、トピックランキング）

《概要》

- ・分析対象：国内上場企業
- ・分析時点：2020年11月1日現在
- ・ページ数：304ページ

■レポートダウンロード方法

以下のフォームよりダウンロードいただけます。

URL：<https://bit.ly/35SZKMu>

■レポート抜粋（エグゼクティブサマリー）

執筆：xenodata lab, アナリストチーム
作成日：2020年11月5日

エグゼクティブサマリー

業界 5年後市場予測

上位業界

医療、ITが上位。医療系は中長期では堅調。コロナによるIT業界の加速が顕著に。特にEコマース及びその関連業界には恩恵大。

ランク	業界名	トピック	スコア	代表企業
1	システムインテグレーション	S+	2,231.1	富士通、NRI、NTTデータ
2	製薬・福祉医療	A	848.6	エムスリー、テカモ、徳田インテック
3	Eコマース	A	803.3	楽天、MaroonBox、メルカリ
4	医療用器具・医療関連サービス	A	764.2	川澄化学工業、日本光電工業
5	ドラッグストア・薬局	A	731.7	ツルハドラッグ、マツモトキヨシHD

業界ランキング上位は、医療とITが独占する結果となった。医療系は、コロナで一時的な需要拡大があるものの、中長期では高齢化に伴って堅調に推移すると予測され上位を占めることとなった。IT系は元々成長が見込まれていた業界であったが、コロナ長期化の影響によりさらに加速すると予測され、多くの業界でハイコスパとなった。また、Eコマースの構造的成長の影響を受け、物流センター企業を含む物流業界（10位）、百貨店・小売業（11位）も上位にランクインした。

下位業界

コロナ自粛やインバウンド消失により小売、観光系が最下位群。さらに、Eコマース急進が小売業界のディスラプションを加速か。

ランク	業界名	トピック	スコア	代表企業
1	百貨店	D-	-8,352.2	三越伊勢丹HD、丸井グループ
2	外食	D-	-7,310.3	ロソンCO-HO、すかいらくHD
3	観光・宿泊	D-	-7,289.7	リソントラスト、エイチ・アイ・エス
4	アパレル・服飾品	D-	-3,511.1	ファーストリテイリング、ワークマン
5	ホームセンター・その他小売	D-	-2,967.3	PPHHD、セリア、DCMHHD、コメロ

業界ランキング下位は、コロナ自粛やインバウンドの消失から直接影響を受ける、小売、外食、観光が独占する形となった。これらの業界は、技術革新等による新市場の創出が進んでおらず、相対するプラスの影響が希薄となり下位を占めることとなった。また、小売ではコロナによりさらに加速したEコマースの破壊的影響を受けると予測され、ヤマダ電機のオンラインが優位である業界からは自立回復となった。その他には自動車部品業界が順位にランクインしたが、これは、EV化の加速でエンジン部品需要が消失し、代替される部品メーカーのマイナスイノベーションが大きな結果である。また、テレワークの広がりにより、オフィス及びその関連業（出張費、オフィス用品等）の減少が顕著な結果。航空輸送業界（10位）や航空輸送業界（18位）、ビルメンテナンス・リフォーム業界（20位）、不動産開発業界（8位）でマイナスイノベーションが大きい結果となった。

企業 5年後業績予測

上位企業

需要拡大見込み商材を多数扱う、キーエンス等が大幅成長予測。エッジコンピューティング需要取り込み狙う中堅企業が上位に。

ランク	企業名	トピック	スコア	取扱製品
1	東海エレクトロニクス	S	328.6	液晶ディスプレイ、ニッケル水素電池
2	キーエンス	S	321.7	FA、画像処理装置、センサー、測定器
4	アステリア	A+	260.5	エッジコンピューティング用ミドルウェア

企業ランキングの上位は、今後の需要拡大が見込まれる商材を多数取り扱う電子部品商材の東海エレクトロニクスとなった。また、2位は、同じく今後の成長が見込まれる物流センターやFA関連市場の商材を多数取り扱うキーエンスがランクイン。物流センター関連では、サトーホールディングスが6位、NITTOGUが20位と上位を占める結果となった。4位のアステリアは、国内上場企業では唯一（開示ベース）エッジコンピューティング向けミドルウェアを手掛けており、今後の進展による市場拡大により大きな成長が見込まれると予測された。他の上位企業は、医療系、IT系が多クランクインしている。医療系では、医療機器の日本光電工業（7位）、ジェネリック医薬品の日本ケムファ（8位）、産科産科等の富士製薬工業（11位）、産科産科のコンパイル（12位）、IT系ではクラウドやクラウドサービスの需要拡大が見込まれるネットワンシステムズ（5位）、チチスカイ（10位）、エイジア（14位）、IJ（24位）、富士通（25位）、インターネット広告のそのま（26位）が上位にランクインした。また、コロナ長期化の影響を受けると予測される小売、外食、観光系が最下位群。さらに、Eコマース急進が小売業界のディスラプションを加速か。

下位企業

EVシフト本格化でエンジン部品の大豊工業等が大幅減益予測。コロナ長期化影響重く、エイチ・アイ・エスやコナカ等が下位。

ランク	企業名	トピック	スコア	取扱製品
1	グエイブ	D-	-459.5	オフィス用品、トナーカートリッジ
2	大豊工業	D-	-416.9	自動車エンジン部品、自動車用輪軸
3	エイチ・アイ・エス	D-	-408.1	旅行代理店、旅行予約サイト

企業ランキングの下位は、オフィス用品を扱うグエイブが最下位1位となり、テレワークやRPAによる需要減退の影響を直接受けると予測され、非常に大きなマイナスイノベーションとなった。2位は、大豊工業。EVで代替されない自動車エンジン向けパーツの依存度の高さが大きなマイナスイノベーションの原因となった。他にも、自動車向け燃料タンクのタカギセイコー（16位）、自動車エンジン向けセンサーのリアン（20位）などが下位にランクインした。5位は紳士服のナカ。テレワークの浸透によりおもにオフィス需要が長期的に減ると予測。他の紳士服メーカーでは、はるまホームディンクス（43位）、青山商事（64位）が最下位となった。また、ホタル、ニューランド（6位）、鶴川グループホールディングス（7位）、前田がホール（11位）と、インバウンド需要の消失、出張や観光の自粛影響が先られないが赤字が続いている。同様にコロナ長期化の影響が予測され、井原（9位）、三越伊勢丹ホールディングス（12位）、大和（19位）による百貨店、エイチ・アイ・エス（3位）、HITCTホールディングス（4位）、ユウテック（8位）のような旅行系企業も大幅な減益が予測され下位にランクインする結果となった。

トピック（製品需要、素材価格等） 5年後予測

上位トピック

医療、福祉、Eコマース関連製品需要は大幅拡大と予測。クリーンエネルギー、蓄電関連は需要拡大が本格化。

ランク	トピック名	スコア	関連シナリオ
1	医療機器需要	81.0	高齢者人口増加、がん患者数増加
2	福祉用具需要	69.1	高齢者人口増加
3	物流センター需要	67.2	EC利用拡大、スマートフォンの利用拡大

トピックランキングの上位は、1位 医療機器需要、2位 福祉用具需要、7位 ドラッグストア未払客数、医療福祉の高齢化とともに需要が拡大すると予測され、上位となった。また、高度加工食品需要の高齢化とともに福祉施設などで利用されると予測された。6位は、治水工事需要。これは、環境対策の本格化に伴い水防設備需要が拡大し、そのためのダム等の工事需要が拡大すると予測されたため上位にランクインする結果となった。温暖化に伴う海面の上昇からのシナリオが治水工事需要を押し上げた要因として挙げられている。10位はMEMS用フォトマスク需要、スマートフォン需要の成長に伴い、及び、EVでも使用されるなど市場規模の大きい製品に使われる部品として上位となった。Eコマース関連は、9位に物流センター需要、9位に宅間集積需要、11位に倉庫需要と上位を占めることとなった。その他にも、物流センター需要を押し上げた要因が20位にランクインしている。大きな需要拡大が見込まれるとされる蓄電関連では、16位の正統電池、21位のニッケル電池、22位の鉛酸電池需要が高スコアとなり、次世代電池の主要な部材がランクインした。

下位トピック

EVシフト、テレワークによる需要減退の影響大。国際的な需給影響により石油等のエネルギー、鋼材価格が下落方向と予測。

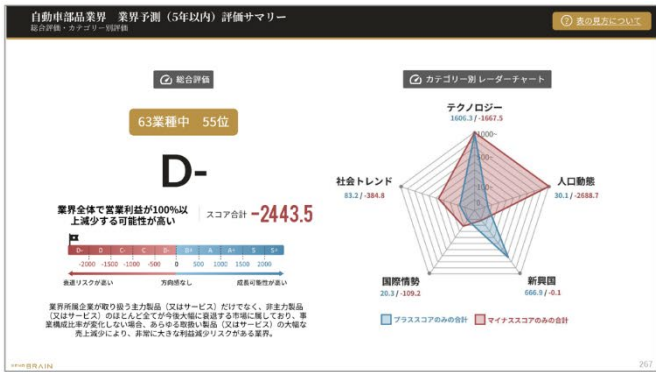
ランク	トピック名	スコア	関連シナリオ
1	ガソリン車需要	-96.1	電気自動車需要増加、CO2削減政策増加
2	鋼材価格	-87.8	自動車軽量化需要増加、建設工事需要減少
3	重油価格	-84.5	OPEC協議減産協議継続、TPP発効

トピックランキングの下位は、ガソリン車需要が1位となった。これは、政府方針、国際的な需給、技術革新などの影響からEVシフトが加速すると予測されたためであり、そのディスラプション対象であるガソリン需要1位という結果となった。ガソリン車需要減少に関連して、4位に自動車エンジン部品需要、16位にガソリン需要などがランクインしている。2位は、鋼材価格。鋼材は自動車軽量化、建設需要減少、住宅用鋼材需要減少から需要減少が予測され、鋼材価格が下落する傾向にあるという結果となった。3位は重油価格がランクイン。9位に軽油価格、15位に原油需要、16位にガソリン需要と、石油製品が下位を占めた。これは、目下下しているOPEC協議減産の協議継続が、需要の減少をもたらす長期的に、石油製品の価格や需要が低下すると予測されることによる。また、TPPによる関税削減も価格低下の要因をもたらすため、価格下落の要因として挙げられている。5位は原油需要、11位、原子力発電の代替エネルギーとして一時的には需要が高まったが、今後の原子力エネルギーの位置により需要が減少していくと予測されている。6位はオフィス用複合機需要、オフィス関連では、オフィス需要が10位、オフィスビル管理需要が18位、オフィス家具が19位と多くの製品需要が下位にランクインした。

■レポート抜粋

自動車部品業界は、EVに使用するパーツを取り扱っているかどうかで成長性の予測結果に明暗が分かれた。

2位は、大豊工業。EVで使用されない自動車エンジン向けベアリングの依存度の高さが大きなマイナススコアの原因となった。他にも、自動車向け燃料タンクのタカギセイコー（16位）、自動車エンジン向けピストンリング大手のリケン（32位）などが下位にランクインした。



セクター	サブセクター	スコア	コメント
エンジン	エンジン	110.2	...
	エンジン部品	115.4	...
	エンジン部品	9.4	...
	エンジン部品	6.7	...
	エンジン部品	1.2	...
自動車	自動車	100.0	...
	自動車	20.1	...
	自動車	0.7	...
	自動車	100.2	...
	自動車	1.8	...
部品	部品	41.5	...
	部品	605.8	...
	部品	605.5	...
	部品	1.9	...
	部品	3,239.5	...
自動車部品業界平均		-2,443.5	

順位	企業名	スコア	コメント
1	大豊工業	-497.0	...
2	タカギセイコー	-368.8	...
3	リケン	-300.0	...
4	大豊工業	-207.2	...
5	リケン	-203.0	...
6	リケン	-201.2	...
7	リケン	-201.4	...
8	リケン	-200.9	...
9	リケン	-200.4	...
10	リケン	-200.3	...

▲自動車部品業界レポート抜粋

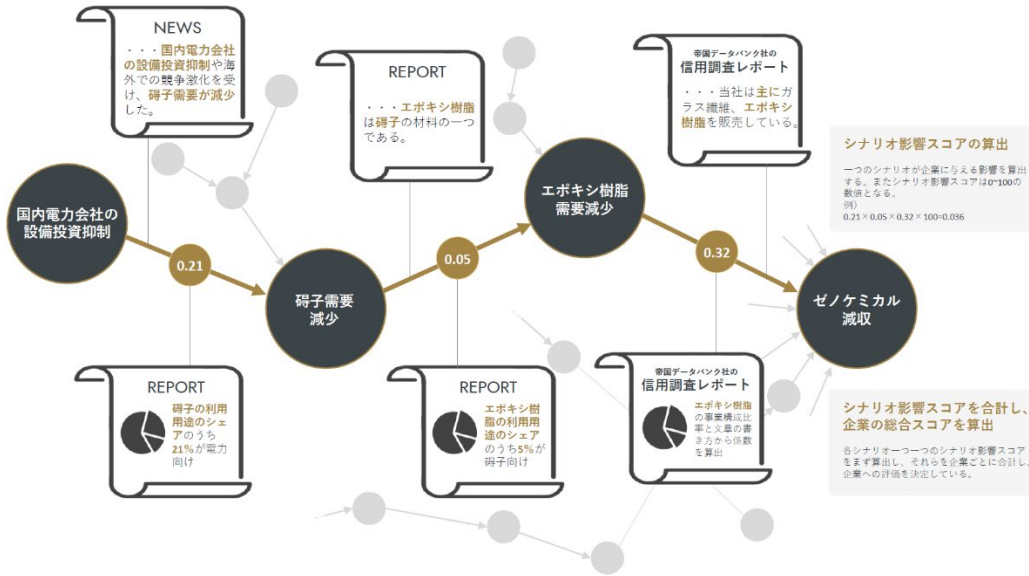
■ゼノデータ・ラボの将来予測サービス「xenoBrain」概要

AIが経済ニュースや決算情報を自然言語処理技術で解析し、経済事象と経済事象の間の関連性を読み解く事で経済・企業の将来予測をリアルタイムで提供するAIクラウドサービスです。今日起きたニュースから、次に起こる経済事象、将来的に影響を受ける企業をAIが瞬時に予測することで、金融機関の業務効率化、事業会社の経営意思決定のサポートを実現します。米国ダウ・ジョーンズ社や時事通信社といった大手メディア、帝国データバンクとの提携により信頼性の高い情報を収集・解析しています。

- ・提供開始（正式版）：2019年6月
- ・URL: <https://service.xenobrain.jp/>

xenoBrainの仕組み

xenoBrainは様々な種類の予測を提供している、国内最大の経済予測情報データベースです。



■ゼノデータ・ラボの会社概要

会社名：株式会社 xenodata lab.

所在地：〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-28-6 VORT 渋谷松濤レジデンス 1001

設立年月日：2016年2月12日

代表者：代表取締役 関 洋二郎

<https://www.xenodata-lab.com/>

■本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 xenodata lab.

広報担当 北口 万里子

Email：pr@xenodata-lab.com